

「秋のオーロラ(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

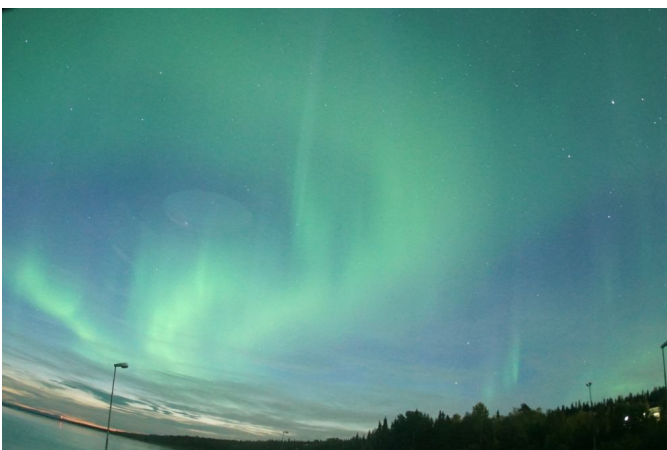
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

2か月ほど前までは白夜だった、スウェーデン北部の北極圏も、今はすっかり秋になったようだ。



写真は、ドゥンドレット山という北極圏にある山の山頂付近で、もうすっかり秋色になっている。晩秋の霧ヶ峰のような風景だ。私が行った時は8月上旬だったが、もう草木は色づき始め、寒いくらいだった。この写真は、スウェーデンの北極圏に住む日本人3人のうち1人が送ってくれた。私の約三十年来の友人で、「こんなところに日本人！」にも出演した有名人で、現地で旅行者関係の仕事をしている。



ドゥンドレット山が秋色になると同時に、このあたりはオーロラシーズンを迎える。写真は、私と仲間が、北極圏(ヨックモック郡・ポルユス村)に設置したオーロラカメラが、今シーズン初めてとらえたオーロラである。青空のように見えるのは「月明かり」のせいだ、こういう日はオーロラが透き通って見える。

駅舎の2階の窓際に設置したカメラは、デジタル一眼レフカメラなので、一般的な防犯用の高感度 CCD カメラとは画質がまるでちがう。オーロラの細かい構造(磁力線やカーテン構造)もはっきり読み取れる。



(2ページ目に拡大画像を掲載)

秋のオーロラは、淡く美しい。月夜の晩は、オーロラが見にくくなるのだが、その分、透明感のあるオーロラが見られ、手を伸ばせば触れそうなくらい、近くに見えるのも不思議である。



(2ページ目に拡大画像を掲載)

秋のオーロラにはもういくつか特徴がある。一つは、上空に残った太陽光の影響で、バンド・オーロラ(幕状のオーロラ)の上部が、淡い紫色になることだ。春(3月~4月上旬)にも見られるオーロラで、「タイプFのオーロラ」と分類されている。

もう一つの特徴は、まだ湖が凍っていない時期なので、オーロラ・ディスプレイ(実際に見えているオーロラの実体)が、湖面に反映するということだ。上の写真でも、オーロラの一部が湖面に反映しているのがわかる。遠隔撮影では何度も撮影に成功したが、実際に現地で撮影したことはまだない。



